

九電グループ経営ビジョン2030

2019年6月



九州から未来を創る九電グループ

～豊かさと快適さで、お客さまの一番に～



ずっと先まで、明るくしたい。

はじめに

九電グループは、「ずっと先まで、明るくしたい。」をブランドメッセージとする「九電グループの思い」のもと、低廉で良質なエネルギーをお客さまへ安定してお届けすることを通じて、お客さまの生活や経済活動を支え、九州とともに成長を続けてまいりました。

昨今の経営環境は、2016年4月の電力小売全面自由化、2017年4月のガス小売全面自由化が開始されたことに加え、2020年4月には送配電部門の分社化(法的分離)が予定されているなど、大きな転換期にあります。

世界に目を向けると、経済・社会・環境問題などの地球規模の社会的課題の解決を通じて、全ての人々にとって、より良い世界・未来を創り、次世代へつなげていこうというESGやSDGsなど、サステナビリティへの関心が高まっており、これらを実現するため、企業への期待も大きくなっています。

また、国内においては、人口減少や少子高齢化の進行に加え、都市部への一極集中により、社会的・経済的な地域格差が拡大するなど、様々な課題が深刻化しつつあります。

一方で、IoTやAIなどの技術の進展は、業務の効率化だけでなく、これまでにないビジネスモデルや価値の創造(デジタルトランスフォーメーション)につながるものであり、お客さま・社会へ新たな価値をお届けできるものと考えております。

こうした中、九州が保有するポテンシャルを活かした地域・社会の持続的発展に向けて、九電グループがどういった貢献ができるかを示し、地域とともに発展・成長していくという私たちの姿勢を発信するため、「九電グループ経営ビジョン2030」を策定いたしました。

私たちは、以前から、「九州の発展なくして、九電グループの発展なし」ということを合言葉としており、地域の皆さまと一緒に知恵をしばり、汗をかくことで、九州の活性化に貢献することこそが使命だと考えております。そして、その上で、アジアや世界の動きをしっかりと見据え、私たちの経営資源を活かし、事業活動を通じ貢献していきたいと考えております。

九電グループは、地域の皆さまと一緒に「九州から未来を創る」ことで、「豊かさや快適さで、お客さまの一番に」なることを目指してまいります。

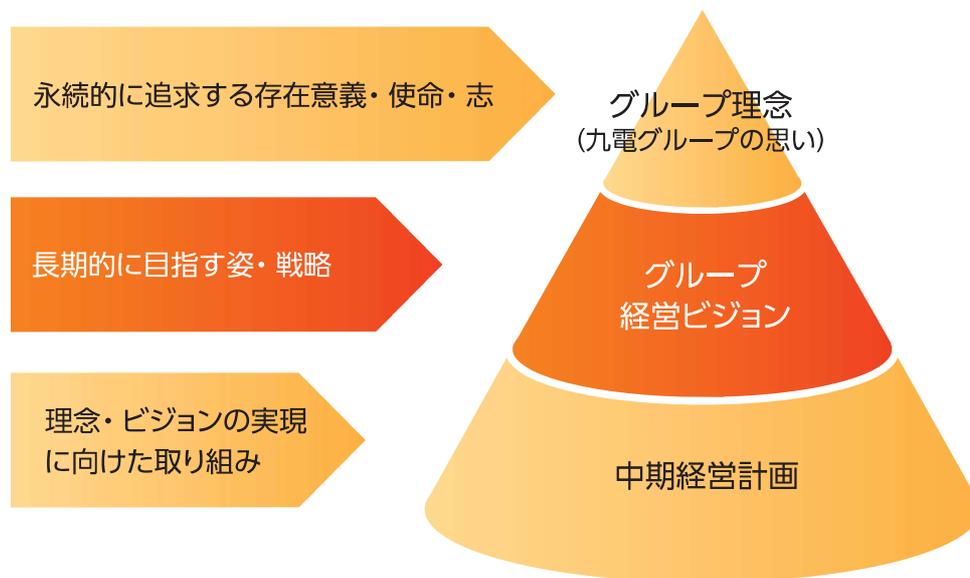
2019年6月

九州電力株式会社
代表取締役 社長執行役員

池辺 和弘



九電グループ経営ビジョンの位置づけ



contents

はじめに	1
1 2030年のありたい姿	4
2 2030年の九州と九電グループ	5
3 ありたい姿実現に向けた戦略	7
戦略Ⅰ エネルギーサービス事業の進化	9
戦略Ⅱ 持続可能なコミュニティの共創	13
戦略Ⅲ 経営基盤の強化	15
4 経営目標	17

九電グループの思い

ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」
そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。
それが、私たち九電グループの思いです。

この思いの実現に向けて、私たちは次の4つに挑戦しつづけます。

1. 地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと

私たちは、お客さまに毎日の生活を安心して送っていただけるよう、エネルギーや環境に関する豊富な技術や経験をもとに、世の中の動きを先取りしながら、地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりとお届けしていきます。

2. 「なるほど」と実感していただくために

私たちは、お客さまの信頼を第一に、さまざまな声や思いをきっちり受け止め、お客さまに楽しさや感動をもって「なるほど」と実感していただけるようなサービスでお応えしていきます。

3. 九州とともに。そしてアジア、世界へ

私たちは、九州の皆さまとともに、子どもたちの未来や豊かな地域社会を考え、行動していきます。そして、その先に、アジアや世界をみます。

4. 語り合う中から、答えを見出し、行動を

私たちは、人間の持つ可能性を信じ、個性を尊重し合い、自由・活発に語り合う中から、明日につながる答えを見出し、行動していきます。

1 | 2030年のありたい姿



九州から未来を創る九電グループ

～豊かさと快適さで、お客さまの一番に～

経営ビジョンの基本スタンス

以下の2つの挑戦を基本スタンスに、2030年のありたい姿実現に向け、戦略を実行していきます。

「持続可能な社会の実現」への挑戦

- お客さまや地域・社会の皆さまからの信頼をベースに、様々な社会的課題に対して、真摯に向き合うことこそが九電グループの使命であるという認識のもと、九州を基盤に「持続可能な社会の実現」に挑戦します。

「九電グループの更なる進化」への挑戦

- グループの経営資源だけでなく、社外とも連携することで、電気事業における競争力の一層の強化はもとより、より豊かで、より快適な生活や経済活動につながる新たな事業・サービスの創出など、「九電グループの更なる進化」に挑戦します。

2 | 2030年の九州と九電グループ



九電グループは、「ずっと先まで、明るくしたい。」というブランドメッセージのもと、豊かで快適な生活につながるエネルギーサービスをお届けするとともに、新たな技術の活用や他社とのアライアンスなどを通じて、社会的課題の解決に貢献し、地域・社会と共に九州から未来を創っていきます。



3 ありたい姿実現に向けた戦略

戦略Ⅰ

エネルギーサービス事業の進化

低炭素で持続可能な社会の実現に挑戦し、より豊かで、より快適な生活をお届けします。

戦略Ⅱ

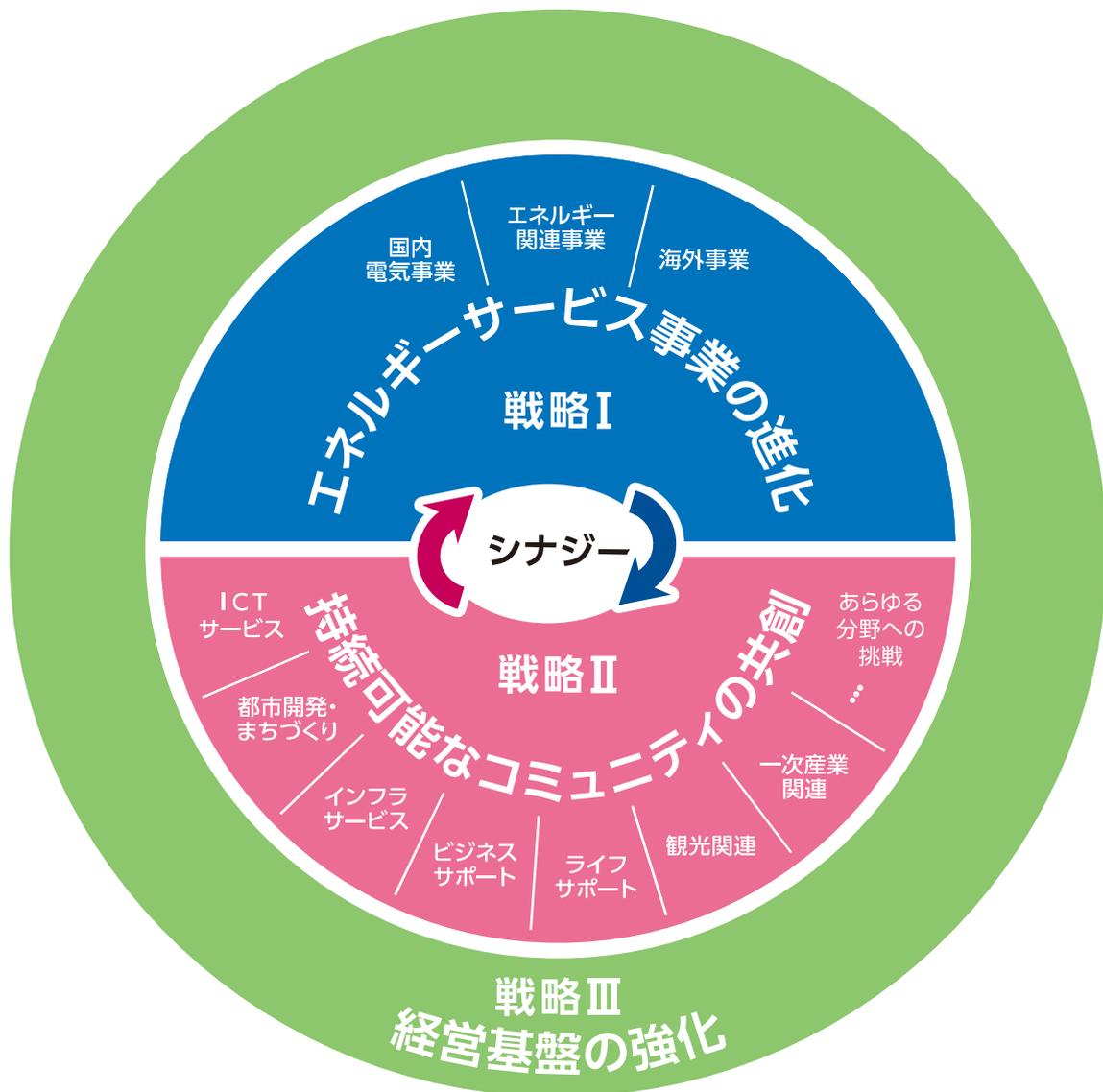
持続可能なコミュニティの共創

九州各県の地場企業として、新たな事業・サービスによる市場の創出を通じて、地域・社会とともに発展していきます。

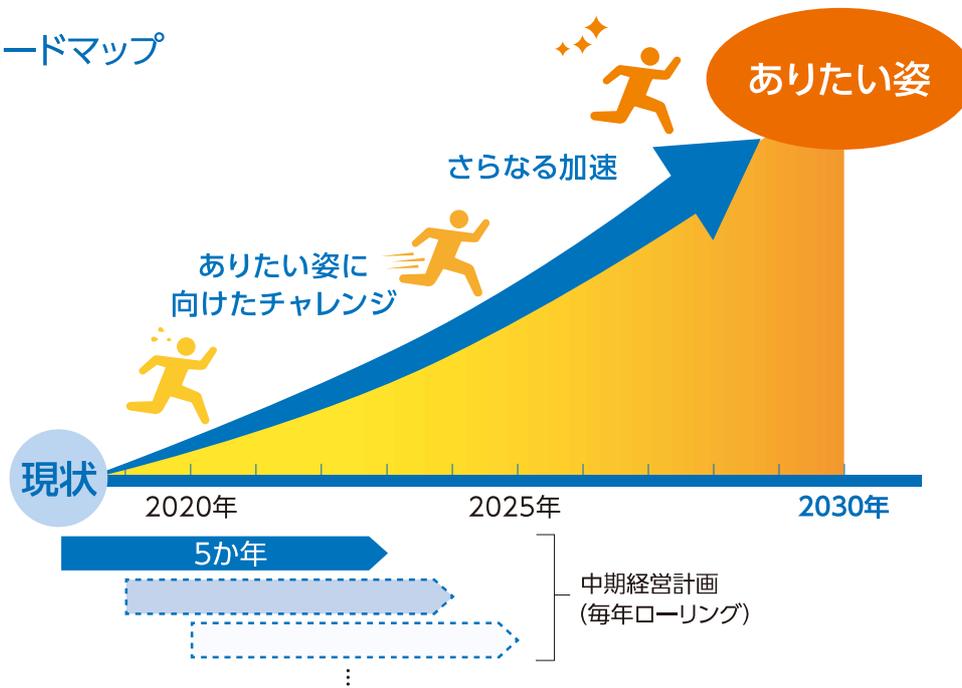
戦略Ⅲ

経営基盤の強化

経営を支える基盤の強化を図り、九電グループ一体となって挑戦し、成長し続けます。



成長のロードマップ



ESGへの取り組み

- 九電グループは、経営環境が大きく変化していく中において、中長期の企業価値向上を目指し、ESGの取り組みを積極的に推進していきます。



- 国連で採択されたSDGsについても、ESGの視点によるサステナビリティへの取り組みの推進や九電グループの持続的な成長に繋がるものとして、その達成に貢献していきます。



戦略Ⅰ

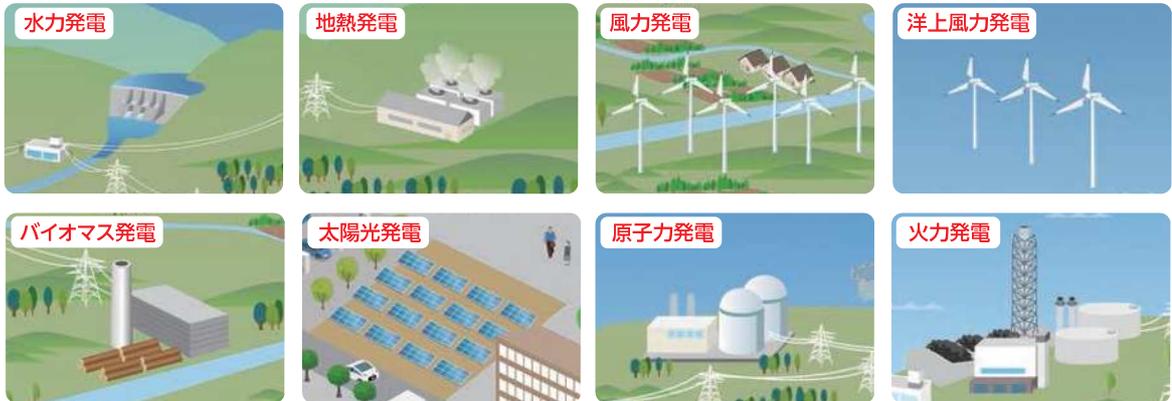
エネルギーサービス事業の進化

低炭素で持続可能な社会の実現に挑戦し、より豊かで、より快適な生活をお届けします。



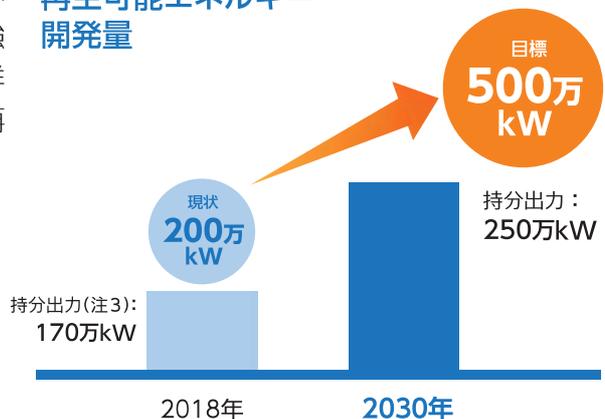
1 環境に優しいエネルギーを低廉かつ安定的にお届けし続けます。

- 「低廉で良質なエネルギーを、安定してお客さまにお届けする」という変わらぬ使命を永続的に持ち続け、グループ一体となって、エネルギーの安定供給の責任を果たしていきます。
- S+3E^(注1)の観点から、再生可能エネルギー（以下、再エネ）・原子力・火力など、それぞれの電源の特徴を踏まえて、最適なエネルギーミックス^(注2)を追求します。
- 安全を大前提として、原子力を最大限活用します。また、原子力諸課題（安全・安心の追求、使用済燃料貯蔵対策、廃止措置など）に真摯に向き合い、解決していきます。



- 九州はもとより、九州域外や海外でも再エネ開発を拡大していきます。九電グループの強みの1つである地熱や水力の開発に加え、洋上風力やバイオマス発電などに取り組み、再エネ開発量500万kWを目指します。

再生可能エネルギー 開発量



- ESGの視点を重視し、環境にやさしく、利便性に優れた電気の良さや価値を、より多くのお客さまに感じていただくために、産業用、業務用、家庭用に加え、電気自動車（EV）普及拡大による運輸用エネルギーの電化など、あらゆる分野で電化を推進していきます。



- 分散型電源の普及や、個人間の取引など多様化する電力取引形態を見据え、蓄電技術の活用や電力制御の最適化などに取り組みます。



- 次世代を担う新たなエネルギーに関する技術開発に取り組みます。



- 再エネ・原子力の活用による非化石電源比率の向上や石炭・LNG火力の高効率化を図りつつ、電化を推進することで、九州のCO₂削減必要量の70%の削減（2013年度比）に貢献し、九州の低炭素化を図ります。

(注1) 安全性(Safety)を前提に、エネルギーの安定供給(Energy Security)、経済効率性の向上(Economic Efficiency)、環境への適合(Environment)の同時達成を目指すという日本のエネルギー政策の基本となる4つの視点。

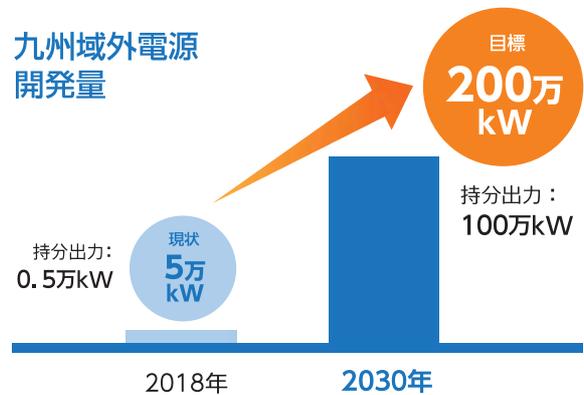
(注2) S+3Eを達成するために、様々な電源の特徴を踏まえてバランスの取れた電源構成とすること。政府は、「長期エネルギー需給見通し」において、2030年の電源構成を「再エネ22~24%程度、原子力22~20%程度、LNG27%程度、石炭26%程度、石油3%程度」としている。

(注3) 九電グループが参画する各プロジェクトの発電設備出力(開発量)に出資比率をかけたもの。

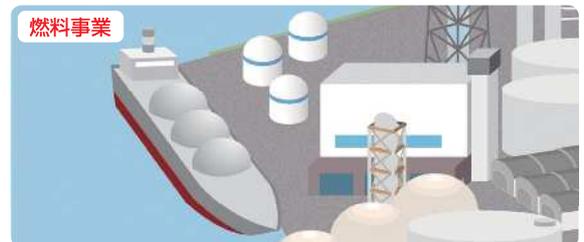
3 | ありたい姿実現に向けた戦略

2 エネルギー情勢やお客さまニーズの多様化など、環境変化を先取りし、エネルギーサービスを進化させます。

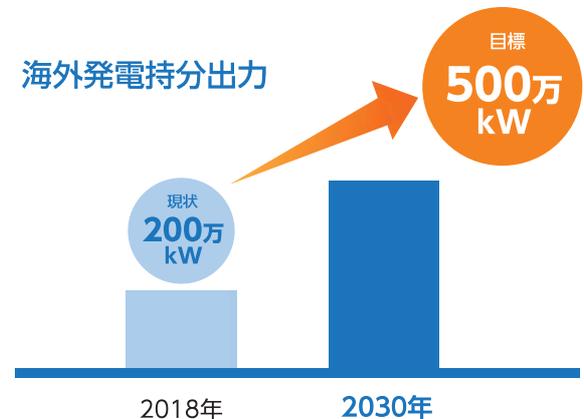
- 低廉な電気料金に加え、暮らしのワンストップサービスなど、お客さまの多様なニーズに迅速にお応えし、新たな価値の創造に努めます。
- 都市開発・まちづくりを通じて、電気の快適性・利便性を一層PRすることで、販売電力量の増加につなげます。
- 電力にかかわる各種新市場導入など、事業のあり方が大きく変わっていく中で、絶え間なくビジネスプロセスを見直し、収益性を追求します。
- 他企業とのアライアンスを推進し、域外も含めた電源開発に取り組みます。



- 環境性に優れているガスについても、小売や卸売を拡大します。
- LNGや石炭の燃料トレーディングをはじめ、燃料事業を強化します。



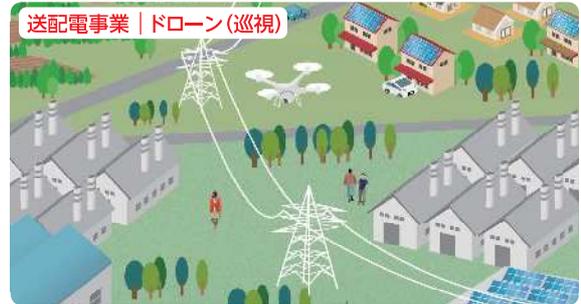
- アジアや米国に加え、他地域へも海外発電事業を拡大します。国内で培った技術を活用し、LNGや再エネなど多様な発電方式に取り組み、持分出力500万kWを目指します。



- 他企業とのアライアンスを推進するとともに、M&Aも活用して電力販売を拡大し、国内及び海外での小売・卸売を合わせた総販売電力量1,200億kWhを目指します。

送配電事業

- 一層の公平性・透明性・中立性を確保しつつ、保全・運用業務の効率化・高度化などにより、安定供給とコスト低減の両立を実現します。



- お客さまとの接点を活かした電化の推進や自治体との連携を通じた企業誘致などに取り組むことにより、九州エリアの電力需要を主体的に創出します。



- 再エネの普及や効率的な設備運用を目指し、ネットワーク技術の高度化を推進します。

- 他企業とのアライアンスを推進し、ネットワークに関する技術や資産を活用したビジネスを創出します。



- 海外でのコンサルティングや事業への参入などの取り組みを推進し、新たな収益源として育てていきます。



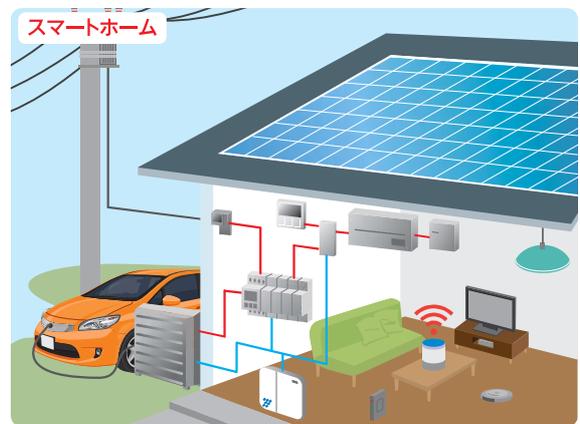
戦略Ⅱ

持続可能なコミュニティの共創

九州各県の地場企業として、新たな事業・サービスによる市場の創出を通じて、地域・社会とともに発展していきます。



- SDGsの実現に向け、自治体や他企業との協業、グループ内のシナジー発揮により、地域・社会の課題に真摯に向き合い、より豊かで、より快適な生活や経済活動につながる新たな事業・サービスを創出します。



- 地域・社会の課題解決に向けて、挑戦者としてあらゆることに取り組むという姿勢の下、九電グループの強みを活かせる「ICTサービス」「都市開発・まちづくり」「インフラサービス」を中心に取り組みます。



- 更に、「ビジネスサポート」や「ライフサポート」にも取り組みつつ、地域特性を踏まえ、「観光関連」や「一次産業関連」などの領域にも挑戦し、九州の更なる成長・活性化に向けてグループ一体となって新たな市場の創出に取り組みます。



- 取り組みにあたっては、デジタルトランスフォーメーション^(注)を進めるとともに、他企業とのアライアンスを積極的に推進することで、外部の知見を取り入れ、新たな価値を創造します。
- 九州で取り組んだ結果をもとに他の地域へ拡大するだけでなく、ニーズに応じて、九州以外や海外での展開を先行させるなど、柔軟に事業を拡大します。

(注) ICTを活用して、効果的に価値創造と提供ができるようにビジネスを戦略的・構造的に変革すること。

戦略Ⅲ

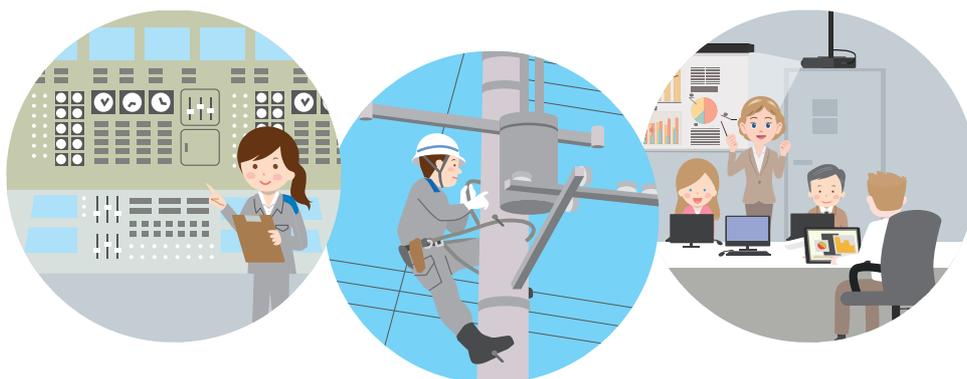
経営基盤の強化

経営を支える基盤の強化を図り、九電グループ一体となって挑戦し、成長し続けます。



1 安全・健康・ダイバーシティを重視した組織風土をつくります。

- 全ての事業活動の基本として、安全と健康を最優先します。
- ダイバーシティを推進し、オープンなマインドセットを持ったプロフェッショナルな人材を育成します。



2 働きがいのある職場を永続的に追求します。

- 風通しの良い組織・風土づくり、日常業務の改善・改革、デジタルトランスフォーメーションなどにより、創造的で付加価値の高い業務を行い、それぞれのライフスタイルにあった働き方で、やりがいを持って生き活きと働くことができる職場を追求します。



3 ステークホルダーからの信頼向上に継続的に取り組みます。

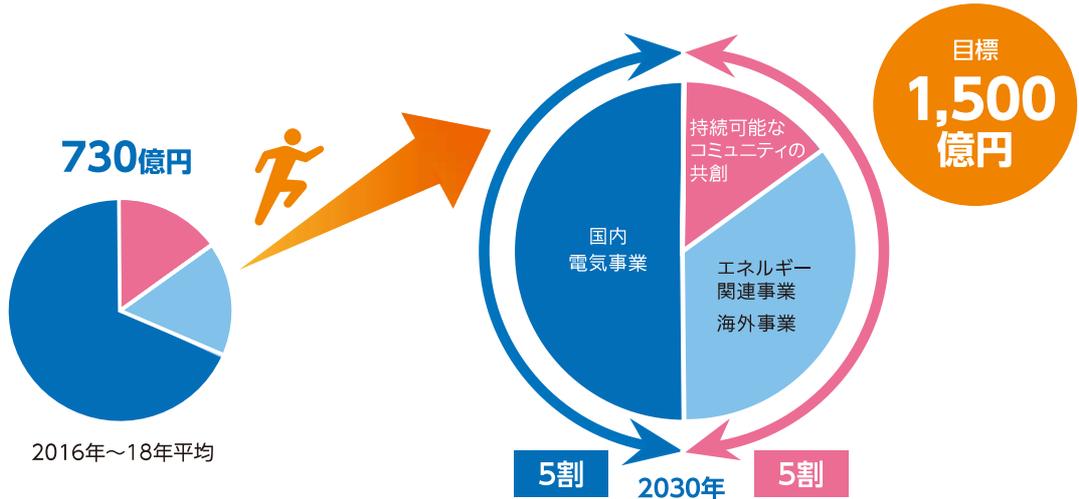
- 九電グループの持続的成長と中長期の企業価値向上に向け、様々な事業活動を行う上での基盤となるコーポレート・ガバナンスの体制構築・強化に継続的に取り組みます。
- 社会のニーズや経営環境変化に迅速・柔軟に対応できる組織・業務運営体制を構築します。
- IoTやAIの活用が広がる中でも、情報セキュリティを確保し、安全・安心を追求します。
- 株主価値向上に向け、財務体質を改善し、株主還元の更なる充実に取り組みます。
- ビジネスパートナーとの強固な信頼関係をベースに、グループ一体となって事業を推進します。



4 経営目標

連結経常利益1,500億円 (国内電気事業5割、その他5割)

- グループ一体となってありたい姿実現に向けた戦略を推進し、2030年の連結経常利益1,500億円 (国内電気事業5割、その他5割) を目指します。

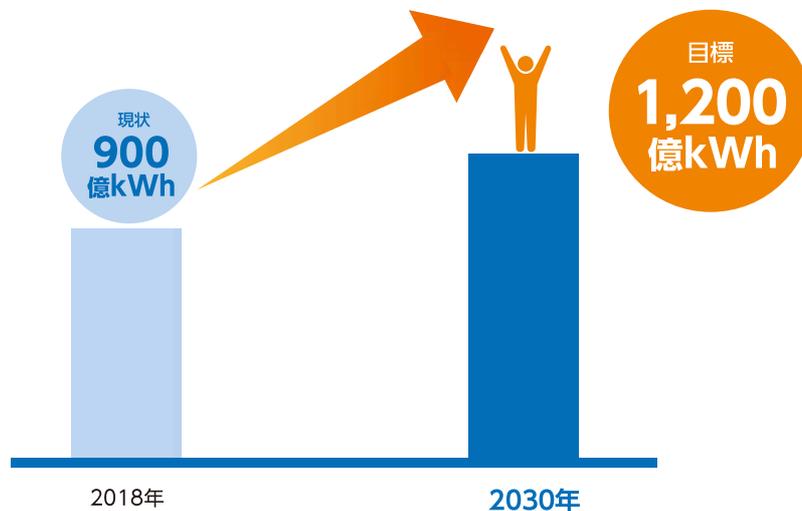


[株主還元について]

利益還元としての配当については、まずは震災前水準 (50円程度/株) を目指していきます。その上で、将来的には、安定配当を基本としつつ、その他事業の成長を踏まえた利益還元を考慮することで、株主還元のさらなる充実を図っていきます。

総販売電力量1,200億kWh

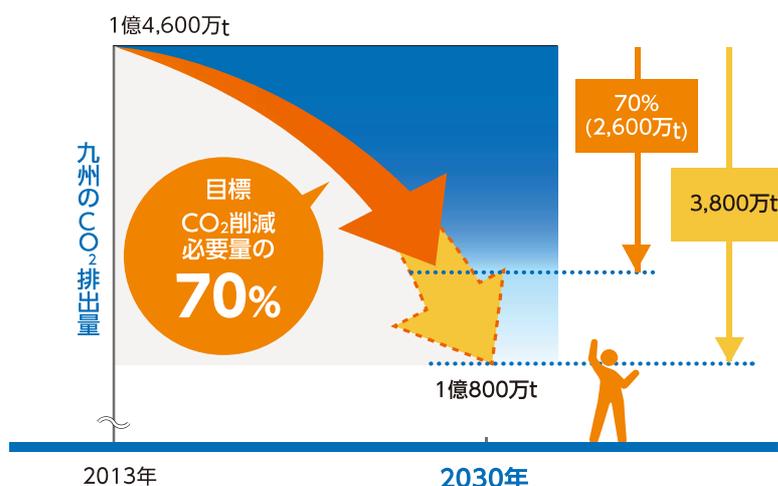
- 国内及び海外での小売・卸売を合わせた総販売電力量1,200億kWhを目指します。



九州のCO₂削減必要量の70%の削減に貢献

- 再エネ・原子力の活用による非化石電源比率の向上や電化の推進などにより、九州のCO₂削減必要量^(注1)の70% (2,600万t)の削減に貢献します。

(注1) 日本の中期目標は、2030年に2013年比で▲26%⇒この目標を九州に置き換えると、2013年の九州のCO₂排出量は1億4,600万tであるため、九州のCO₂削減必要量はその26%にあたる約3,800万t

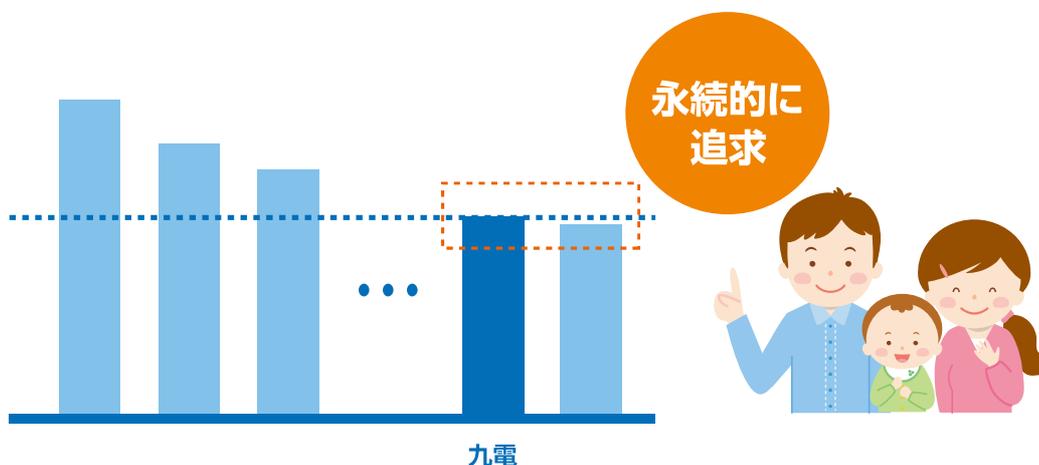


本目標は、2021年11月に公表した「[九電グループ カーボンニュートラルの実現に向けたアクションプラン](#)」において見直しています。詳細は、別添の「[2030年の経営目標（環境目標）の見直しについて（2021.11.30策定）](#)」を参照ください。

トップレベルの電気料金の永続的な追求

- ありたい姿実現に向けた戦略の推進を通じて、トップレベルの電気料金^(注2)を永続的に追求していくことで、地域活性化に貢献し、九州とともに九電グループも成長していきます。

(注2)再生可能エネルギー発電促進賦課金、燃料費調整額、消費税を除く



九電グループ会社一覧(98社) (2019年5月31日現在)

国内電気事業(3社)

九州電力(株) 九州電力送配電(株) 九電みらいエナジー(株)

エネルギー関連事業、海外事業(66社)

(株)キューデン・インターナショナル	大分エル・エヌ・ジー(株)	北九州エル・エヌ・ジー(株)	串間ウインドヒル(株)
西日本環境エネルギー(株)	九州林産(株)	長島ウインドヒル(株)	(株)福岡エネルギーサービス
九電テクノシステムズ(株)	(株)九電ハイテック	西日本空輸(株)	西日本プラント工業(株)
九州高圧コンクリート工業(株)	九電産業(株)	みやざぎパイオマスリサイクル(株)	西日本技術開発(株)
光洋電器工業(株)	西技工業(株)	下関パイオマスエナジー合同会社	キュウシュウ・エレクトリック・オーストラリア社
キュウシュウ・エレクトリック・ウィートストーン社	キューデン・サルーラ	キューデン・インターナショナル・ネザランド	九電新桃投資股份有限公司
キューデン・インターナショナル・ヨーロッパ	パシフィック・ホープ・シッピング・リミテッド	キューデン・パースボロー	キューデン・インターナショナル・グリーン
キューデン・インターナショナル・サウスフィールド・エナジー	(株)ブラズワイヤー	鷲尾岳風力発電(株)	西技測量設計(株)
宗像アスティ太陽光発電(株)	奄美大島風力発電(株)	キューデン・イリハン・ホールディング・コーポレーション	キューデン・イノバテック・ベトナム
戸畑共同火力(株)	(株)九電工	(株)福岡クリーンエナジー	大分共同火力(株)
九州冷熱(株)	(株)キューヘン	誠新産業(株)	西九州共同港湾(株)
(株)九建	西日本電気鉄工(株)	ライオン・パワー(2008)	エレクトリシダ・アギラ・デ・トゥクスパン社
キュウシュウ・トウホク・エンリッチメント・インベストメント社	エレクトリシダ・ソル・デ・トゥクスパン社	テプディア・ジェネレーティング	沖縄うるまニューエナジー(株)
ソヤノウッドパワー(株)	ひびきウインドエナジー(株)	(株)千葉袖ヶ浦エナジー	日豪ウラン資源開発(株)
北九州エル・エヌ・ジー・ローリー販売(株)	(株)パイオコール熊本南部	豊前ニューエナジー合同会社	新桃電力股份有限公司
フーミー3・BOT・パワー・カンパニー	大唐中日(赤峰)新能源有限公司	サルーラ・オペレーションズ	セルビシオス・デ・ネゴシオ・デ・エレクトリシダ・エン・メキシコ
双日パースボロー	AEI F・クリーン・インベスター		

ICTサービス事業(8社)

(株)QTnet	(株)キューデンインフォコム	ニシム電子工業(株)	九電ビジネスソリューションズ(株)
(株)アール・ケー・ケー・コンピューター・サービス	(株)R K K C Sソフト	(株)コアラ	(株)ネットワーク応用技術研究所

都市開発・まちづくり、インフラサービスなどの事業(21社)

(株)電気ビル	(株)キューデン・グッドライフ	(株)キューデン・グッドライフ東福岡	(株)キューデン・グッドライフ熊本
(株)キューデン・グッドライフ鹿児島	(株)キューデン・グッドライフ福岡浄水	(株)キャピタル・キューデン	(株)九電ビジネスフロント
九電不動産(株)	(株)九電ビジネスパートナー	九州メンテナンス(株)	九州高原開発(株)
(株)ジェイ・リライツ	記録情報マネジメント(株)	(株)九州字幕放送共同制作センター	(株)オークパートナーズ
九州住宅保証(株)	福岡エアポートホールディングス(株)	伊都ゴルフ土地(株)	緑ヶ丘リビングサポート(株)

博多那珂6開発特定目的会社



ずっと先まで、明るくしたい。

〒810-8720
福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号
TEL(092)761-3031[代表]
<http://www.kyuden.co.jp>